

13 院政と平氏の台頭

後三条天皇

摂関家を外戚としない **後三条** 天皇が即位。

延久の荘園整理令 = 登録抹消の整理令 **1069** 年とゴロる。

史料研究 2つの史料が大切だ。

(1)延久の荘園整理令『百練抄』

「(延久元年2月) ... (1) **寛徳2年**以後の新立荘園を停止すべし、縦い彼の年以往といえども、(2) **立券** 分明ならず、国務に妨げある者は、同じく停止の由宣下す。(同年)閏2月 ... はじめて(3) **記録荘園券契所** を置き、(4) **寄人** らを定む。」何について書かれたものか判断できるように。

意味：1045年以降に新しく成立した荘園は停止する。たとえ、1045年以前に成立した荘園であっても、その設置に関する証拠書類が明らかでないもの、また、国務に支障をきたす荘園であれば停止する。

(1)寛徳2年は西暦何年か。 **1045** 年。(2)は **立券** (3)は **記録荘園券契所** (4)の意味は **学識の優れた中下級貴族** ... 具体名は **大江匡房**、この男、頻出、出典は『 **百練抄** 』

(2)延久の荘園整理令『愚管抄』

「この(1) **後三条** 院の位の御時、... (2) **延久** の記録所としてはじめてをかれたりけるは・・・、すなわち **宇治殿** の時、**一の所** の御領御領とのみいいて、荘園諸国にみちて受領のつとめたえがたしなどいうを、聞こし召しもちたりけるにこそ。」

意味：藤原頼通の時に、「摂関家の御領だ」ということをふりかざして、諸国に荘園があふれ、受領の任務が果たせないなどという不満の声があがっていたのを、聞いたからであろう。

出典：(3)『 **愚管抄** 』は絶対。

(1)は、 **後三条**、(2)は、 **延久** 出典(3)は、 **愚管抄** であり作者 → **慈円** は頻出。また、 **石清水八幡宮** の 34 ヲ所の荘園のうち 13 ヲ所停止、没収された。大きな成果をあげた。

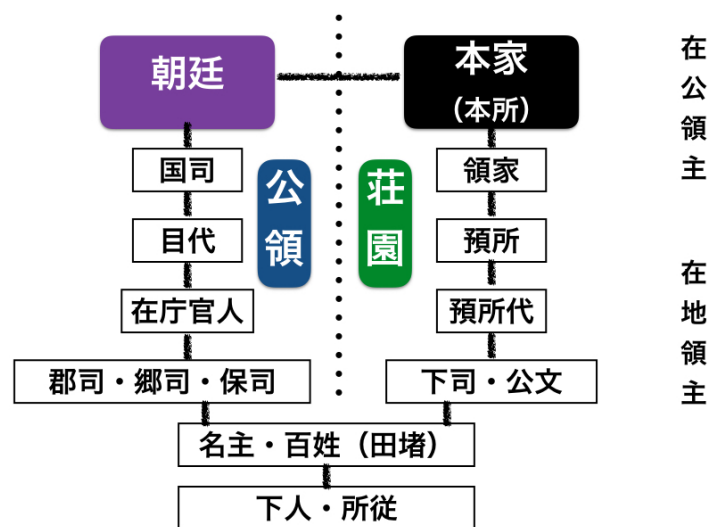
度量衡の統一もはかられた。延久の **宣旨升** である。

荘園公領制

貴族・寺社が支配する **荘園** と国司の支配する **公領** の区別が明確になる。
受領は、**開発領主** の開発地を郷や保などのあらたな行政単位とし、彼らを **郷司** や **保司** などに任命した。年貢は名田に賦課され、田堵でもあった名主がその納入の責任を負った。年貢のうち、糸・炭・野菜など手工業製品や特産物を納入するのを → **公事** という。労役の負担は → **夫役**。名主は、 **下人** と呼ばれた隷属農民などに名田を耕作させた。
作人 と呼ばれた農民は名田などの一部を請負耕作して生計を立てていた。

院政の開始

白河 天皇は、1086年に譲位して上皇(院)となり、院政が始まった。以後約70年間、承久の乱まで院政が続く。**院庁** という機関が政治的な存在感を持つことが最大の特徴である。



院政の開始 (**神皇正統記**)
第七十二代、第三十九世白河院……天下ヲ治
給コト十四年。太子に譲りて尊号あり。世ノ
院 **ヲハジメテ院中ニテシラセ給**。後**ニ出家セサセ給テモ**
猶ソノママニテ御一期ハスゴサセマシマシキ。……**宣旨**・
官符三テコソ天下ノ事ハ施行セラレシニ、此御時ヨリ**院**
宣・庁ノ御下文ヲオモクセラレシニヨリテ、在位ノ君
又位ニソナハリ給ルバカリナリ。世ノ末ニナレルスガタ
ナルベキニヤ。

Pain is inevitable Suffering is optional

天皇家の家長として自らの子や孫の天皇をしのぐ權威や財産を持つようになった上皇は**治天の君**と呼ばれた。

史料研究

はじめに用典は、「**神皇正統記**」書いたのは**北畠親房**。が上智や明治大で出た。
譲られた太子⇒**堀河天皇**。はじめて院政を行ったのは**白河上皇**。

院政は父の立場を活用した政治形態であり、そこでは専制的な統治が可能となった。具体的には、**院宣**（上皇の命令を伝える文書）や

院庁下文（院庁が下した文書）などを発し、さらに要所に**院の近臣**を送り込み従来の国家機構に背後から働きかけ国政を動かした。

上皇を中心とする勢力は院の軍事力強化のため**北面の武士**を置いた。

上皇は仏教を篤く信仰し白河上皇は**法勝寺**を造立、堀河天皇は**尊勝寺**を建てた。これらは**六勝寺**と総称される。紀伊の**熊野詣**や**高野詣**も盛んに行われた。

院への荘園集中

白河上皇は造寺・造仏の費用をまかなうために、受領などの**成功**を利用した。

院の荘園を**仙洞御領**というのに対し摂関家の荘園は**殿下渡領**という。

後白河上皇が所有した**長講堂領**や、鳥羽上皇の娘が父から継承した

八条院領などが形成された。



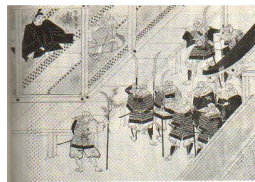
丸暗記事項＝**知行国制** **上級貴族に知行国主として一国の支配権を与え、その国からの収益を取得させる制度**。

奥州藤原氏

中尊寺建立の**清衡**・**基衡**・**秀衡**で繁栄し4代**泰衡**のとき源頼朝によって滅ぼされた。

保元・平治の乱

1156年に起きた★保元の乱や（いい頃 1156 起こった）**1159**年（人々ご苦労）に起きた平治の乱では、貴族内部の争いに武士が介入した時代となった。慶應大が年号を出題。『愚管抄』を書いた**慈円**は保元の乱により「武者の世」になったと位置付けた。



南都
奈良法師
興福寺の僧兵は**春日**神社の神木で強訴

山法師
延暦寺の僧兵は**日吉**神社の神輿で強訴
北嶺

慈円の父が、天皇方の関白**忠通**であり忠通の父が**忠実**なのだ。この忠実が兄より悪左府の弟**頼長**を好んだため保元の乱が起こったことは記憶したい。

保元の乱の対立関係

	天皇家	摂関家	平氏	源氏
勝	後白河天皇（弟）	藤原忠通	平清盛（甥）	源義朝
負	崇徳上皇（兄）	藤原頼長	平忠正（叔父）	源為義

律令の五刑の死刑は約350年間停止されていたが、保元の乱の折に復活し、**源為義**・**平忠正**が死刑になった。

桓武平氏

平清盛は、後白河上皇の信任を得て、法住寺御所の近くに寺院**蓮華王院**を造営した。また京内の水陸交通の要地である**六波羅**を拠点にした。

1167年武士として初めて**太政大臣**に就任した。

娘の徳子を⇒**高倉**天皇の中宮とし、その子の

⇒**安徳**天皇が即位したため天皇の外戚となった。

日宋貿易

大輪田泊が摂津国であること、⇒**音戸**の瀬戸が現在の広島県呉市であることが出ており、場所を知っておく重要性がわかる。

12世紀に宋が**女真族**の建国した金に圧迫されて南宋となって以後、さらに日宋貿易は活発になっていった。日本からは、金が輸出され大陸からは**宋銭**や陶磁器、香料がもたらされた。

鹿ヶ谷の陰謀

後白河法皇の近臣**藤原成親**・僧**俊寛**らが京都郊外で平氏打倒の陰謀をめぐらせていることが発覚、配流された。

後白河法皇の幽閉

後白河法皇を幽閉し、多数の貴族の官職を奪った。平氏一族で全国30余国の**知行国**、500カ所以上の**荘園**を支配する。このような平氏の貴族的性格と論じる！という論述問題が出ている。

「此一門にあらざらむ人は皆人非人なるべし」と、『**平家物語**』で述べたのは⇒**平時忠**である。



平清盛